河本総合防災

# 気仙沼名産のフカヒレスープ等開発

## 現地企業とコラボ

### 非常用の保存食で4品

相模原市の㈱河本総合防災（中央区鹿沼台2―1―3、河本俊二社長）は宮城県気仙沼市を本拠地に水産や観光事業を展開する㈱阿部長商店（阿部泰浩社長）と提携し、気仙沼名産のフカヒレを使ったスープなど4品の非常用保存食を開発し、4月から出荷を始めた。

### 鯖みそ煮やさんまの生姜煮

従来乾パンと水などが主体だった防災食だが、消費期限を迎えた際の用途が限られるため、現在は市販の菓子やレトルト食品などを長期保存化した「常災兼備」の食品が注目を集めている。期限が来た場合もおいしく消費でき、非常時利用では慣れ親しんだ食品を食べることで心の安定につながる効果もあるという。

今回の4品も大震災の経験を踏まえて「おいしい」「暖かい」を重視して昨年秋から開発に取り組んだもので、阿部長商店の技術とノウハウを生かして気仙沼の工場で製造、5年保存のレトルト食品として製品化した。2月2日から3日にかけ横浜で開催された第16回震災対策技術展でも4000人分の試食を提供し好評を得て、事前注文も順調。

今後は同社の提携企業を中心に拡販を行うが、被災地企業の製品という背景もあり、ホームセンター防災グッズコーナー向けの引き合いや、ネット販売でも関心が高いという。常務の河本伊久雄氏は「防災とともに被災地の雇用にも役に立てれば」と話している。4品は次のとおり。①「ふかひれ広東風スープ」200㌘20袋入り1万470円、800㌘10袋入り2万1000円②「広東風中華スープ」200㌘20袋入り1万2600円、800㌘10袋入り1万9950円③鯖みそ煮」130㌘20袋入り1万1150円④「さんまの生姜煮」120㌘20袋入り1万1150円。なお、同社は同製品売上金の一部を被災地に寄附する。

防災食加工した「気仙沼ふかひれスープ」

三菱重工

## CSRで理科教室

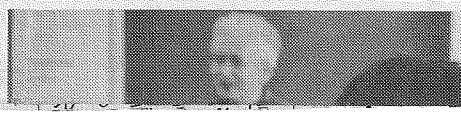
### 5年生30人が工場見学も

三菱重工業㈱相模原製作所（中央区田名3000）はCSR（企業の社会的責任・社会貢献）活動の一環として3月28日、市内の小学5年生を対象に「おもしろ実験教室」を開き、応募した30人が参加した。

子どもたちに理科への興味・関心を深めてもらうため、同社フォークリフトに使われている理科の原理を実験しながら学ぶ教室で、今回で2回目。

子どもたちがテーブルに着くとまず総務部課長の浮ケ谷崇氏から、発電機や漁船用エンジン、フォークリフトなど同製作所で作っているものが紹介され、配られたパンフレットを見ながら話を聴いていた子どもたちだが、中には「戦車」という言葉に驚き、顔を見合わせる男の子たちも。

講師は子ども向けに科学の楽しさを普及するNPO「子ども・宇宙・未来の会」（中央区田野倉AXA内表）理事の遠藤純の遠藤純。子どもたちは習っていたペーパークラフトやゴムの重りの原理や油圧の原理をあったが、しながら解が進んで作り組み、フクリフトの



相模原市体育協会

## JAXA宇宙科学教室

### 子ども向け金環食講演会

も目を輝やかせ、講演のあとにも残って質問する姿が見られた。

金環日食は児童生徒の登校時間にあたるため、JAXAでは現在、市内児童の登校時間を早めて学校で観測するよう市教委に働きかけているという。

「金環日食」5月1日。

分、金環食最大―同34分、金環食終了―同37分。

「部分月食」6月4日。

月食開始―夜9時9分、月食終了―同10時6分。

「金星の」6月6日。